東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009 年 8 月 14 日

ラマダーン月が始まるにあたって

親愛なるムスリムの皆様。崇高なるアッラーの限りのない恵みのうちの一つが、そのあらゆる美と精神的・物質的な恵みの観点から、聖なるラマダーン月といえます。ラマダーンは崇拝行為と慈悲と許しの月です。豊かな恵みと多くの善を備えた月です。この月は、助けと許しと恵みの月です。一年間の、物質的・精神的穢れから清められます。人間的な感情が高められ、過ちや罪を悔悟し、真実へと向かおうという意志、意欲が強められる物質的かつ肉体的な意味で鍛錬の月です。人々を思想的・道徳的な逸脱や無知であることから救い、科学、文化、文学、そして美徳へと方向付けるクルアーンは、この月に預言者ムハンマドへと下され始めたのです。**1000** の月よりもなお尊い「みいつの夜」はこの月に含まれています。

この月の徳について崇高なるアッラーは次のように仰せられておられます。「ラマダーンの月こそは、人類の導きとして、また導きと（正邪の）識別の明証としてクルアーンが下された月である。それであなたがたの中、この月（家に）いる者は、この月中、斎戒しなければならない」（雌牛章第 **185** 節）預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は、ある年のラマダーン月を前にして、その月の徳についてフトバの中で次のように語られました。「人々よ！偉大でかつ祝福されたこの月の影が少しずつあなた方の上にも届きつつあります。この月には、千の月よりもなお尊い『みいつの夜』があります。この月にアッラーは、日中斎戒を行うことを義務とされました。そして私は、この月の夜間にタラーウィーの礼拝を行うことをあなた方にスンナとしました。この月に自らの意志で善行を施す者は、他の月に一つの義務を実行したのと同じほどの報奨を得ます。この月に義務であることを実行する者は、他の月に７０の義務を行ったほどの報奨を得ます。ラマダーン月は忍耐の月であり、忍耐と助け合いの見返りは天国です。ラマダーン月は恵みの月であり、信者の糧が増やされる月です。この月に誰かが、断食を行っている人にイフタール（断食あけの食事）を施せば、その人のこの行為は罪が許されること、地獄から救われること、そしてイフタールをさせた人が行なった断食の報奨からも分け前を得ることへの要因となります。断食を行った人の報奨からは何も減らされることはありません」

親愛なるムスリムの皆様。ラマダーン月はクルアーンが啓示された月であるということからも、神聖な月です。クルアーンは信者たちを真実へと導く道案内です。だからこの月にはクルアーンをよりよく読み、理解し、実践するよう努めましょう。

ラマダーン月は忍耐と感謝の月です。断食を行うことにより、自我を忍耐によって鍛錬し、かつ、アッラーが与えてくださった恵みに対しなすべきである感謝を行うことができます。断食は当然、アッラーに対し私たちがしもべであること、そして与えられた恵みに対し感じている感謝の念を表現する最良のすべです。同時に断食は人の肉体的・精神的健康や社会生活においても数え切れないほどの効果をもたらすという面でも重要な崇拝行為なのです。

最後に、ラマダーン月は気前のよさと助け合いの月です。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）の気前のよさが活気づく月です。ムスリムとしてこの神聖なる月に、イスラームの５つの条件の一つである断食の義務を果たすため、肉体的にも精神的にも十分に備えておきましょう。幸せで愛に満たされたラマダーン月を過ごすよう努めましょう。

ようこそ、慈しみの月よ！慈悲と恵みをあなたはもたらしてくれるのです。